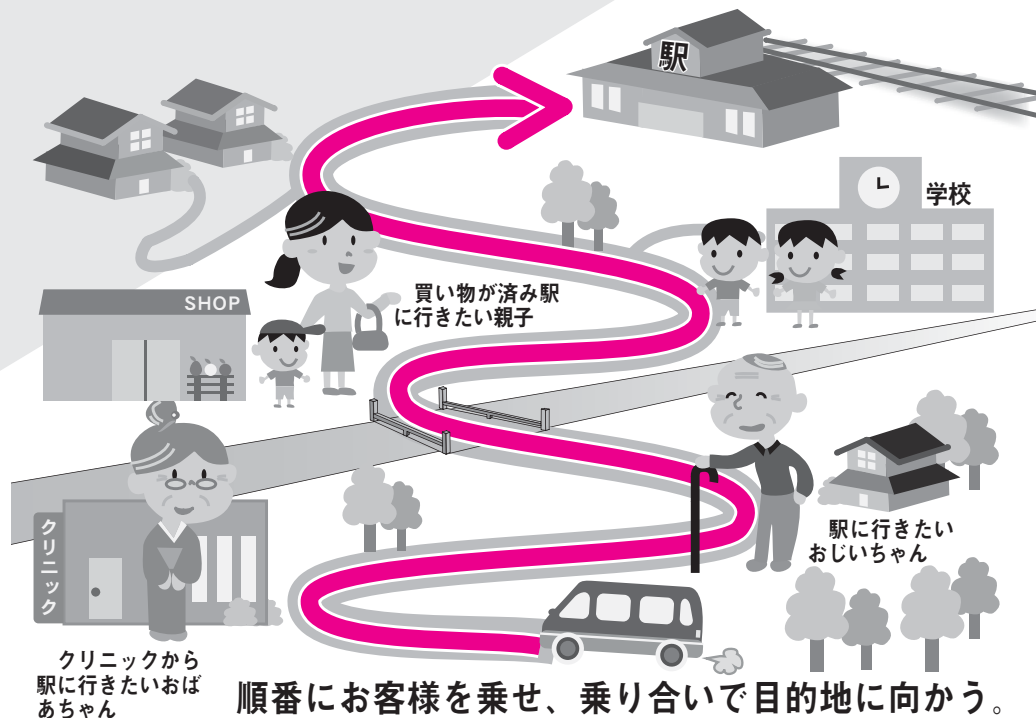


予約型で乗合方式の公共交通



総社市新生活交通のイメージ



順番にお客様を乗せ、乗り合いで目的地に向かう。

4月から本格運行を開始

市では予約型で乗合方式の公共の乗り物「総社市新生活交通」の導入を決め、今年4月から運行を開始します。愛称は公募により「雪舟くん」になりました。生活密着型の交通手段の意味でデマンド交通を「総社市新生活交通」と呼びます。定員5人と8人のワンボックスカーを使って運行。買い物や通院などで出かけるとき、電話予約すると、自宅など希望する場所に迎えに行き、目的地まで1乗車300円で送迎する乗り物です。乗り合いで戸口から戸口を結ぶこの交通システムは、登録すればだれでも使える市民の新しい交通

手段となります。

昨年12月から市内各地域で説明会を行い、周知と登録を呼び掛けています。市役所内に予約を受け付ける「雪舟くん予約センター」を開設し、本格運行への準備も秒読み段階。今年3月7日現在9403人の登録があり、3月7日から試行運行を始めました。

市内には路線バスの衰退により、公共交通網の手の届かない交通空白地が多くあります。そこで、タクシーの運賃を兼ね備えた交通手段として予約型で乗合方式の公共交通を導入することになりました。

ごみ袋の販売額半額

ごみ袋販売額に変動相場制

市 指定のごみ袋の販売額を昨年10月からこれまでの半額にしました。また、ごみ袋の販売額の変動相場制も導入。ごみ袋の販売額は市全体のごみの量を基に決める考え方です。まずは、おおむね3年後のごみの量がその目安となります。こうしたことを機に、ごみの量を増やさないことを

市と市民が約束する「総社みんなの約束」を9月22日、市役所で調印。これは、市民全員でさらなるごみ減量に取り組むことを誓ったものです。

今回の値下げは、家庭から出るごみの量が、有料化する前の平成17年度と比較し、平成20・21年度は20%以上の削減を達成したことなどから決定しました。

市民を守り、暮らしやすいまちへ

市指定のごみ袋の料金が半額になりました。それとともに、ごみ袋の販売額を、おおむね3年間のごみの量を基に決める変動相場制も導入しました。また、総社の農業を元気にし、一人でも多くの農業者を増やそうと、市の農業の指針となる『総社市農業ビジョン』が策定されました。



学校給食で地元産品を多く使ったご当地グルメ「総社ドッグ」を食べる子どもたち。地産地消の促進も提言の一つ



総社市農業ビジョン

地産地消推進条例の制定へ

農 業を元気にし、一人でも多くの農業者を増やそうと策定を進めていた市の農業の指針『総社市農業ビジョン』が昨年10月21日、完成しました。

生産・加工・流通・消費・行政の各分野の委員で構成される総社新農業会議が策定。「総社の農業を元気に!!」を基本理念としています。そして、これからの農業の

目指すべき方向性や、担い手の育成・支援、農産物のブランド化など60の提言がまとめられています。そのなかからまず、地産地消を進める地産地消推進条例の制定を進めています。その第一歩として、規模に関係なく市内の農家が生産する農産物を、学校給食に供給するシステムの構築を目指しています。

総社新農業会議



地域、家庭、企業、学校などの代表16団体と約束を結んだ